

インターバンクの声（2017年10月27日）

昨夜、注目されていた欧州中央銀行（ECB）理事会は、事前予想通り量的緩和策の規模縮小を2018年1月から始める決定をした。現在の月600億ユーロの国債購入額を半減、月300億ユーロに抑えた上で、実施期間を18年9月までとした。

延長期間については大方の予想通りだったが、市場は資産購入額の縮小額が月300億ユーロに留まったことに失望、ドラギ総裁の会見が始まるのを待たずにユーロ売りに動き始めた。

そのドラギ総裁の会見での発言もハト派的だったと解釈され、その後ニューヨーク市場の終盤まで140ポイント超の下落となった。

論点になったのは、ドラギ総裁の「経済見通しが悪化した場合は量的緩和を9月以降も続ける」との発言で、必要があれば買入れの規模、実施期間の延長もあり得るとしたことが、市場のユーロの先行き不安を誘った。

市場では量的緩和の縮小規模などについて失望があったとしても、対ドルで1.17ドル前後では止まるとの見方が支配的だったが、予想外に大幅な反応があったため、今後ユーロ見通しが下方修正される可能性が大きくなったかも知れない。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。